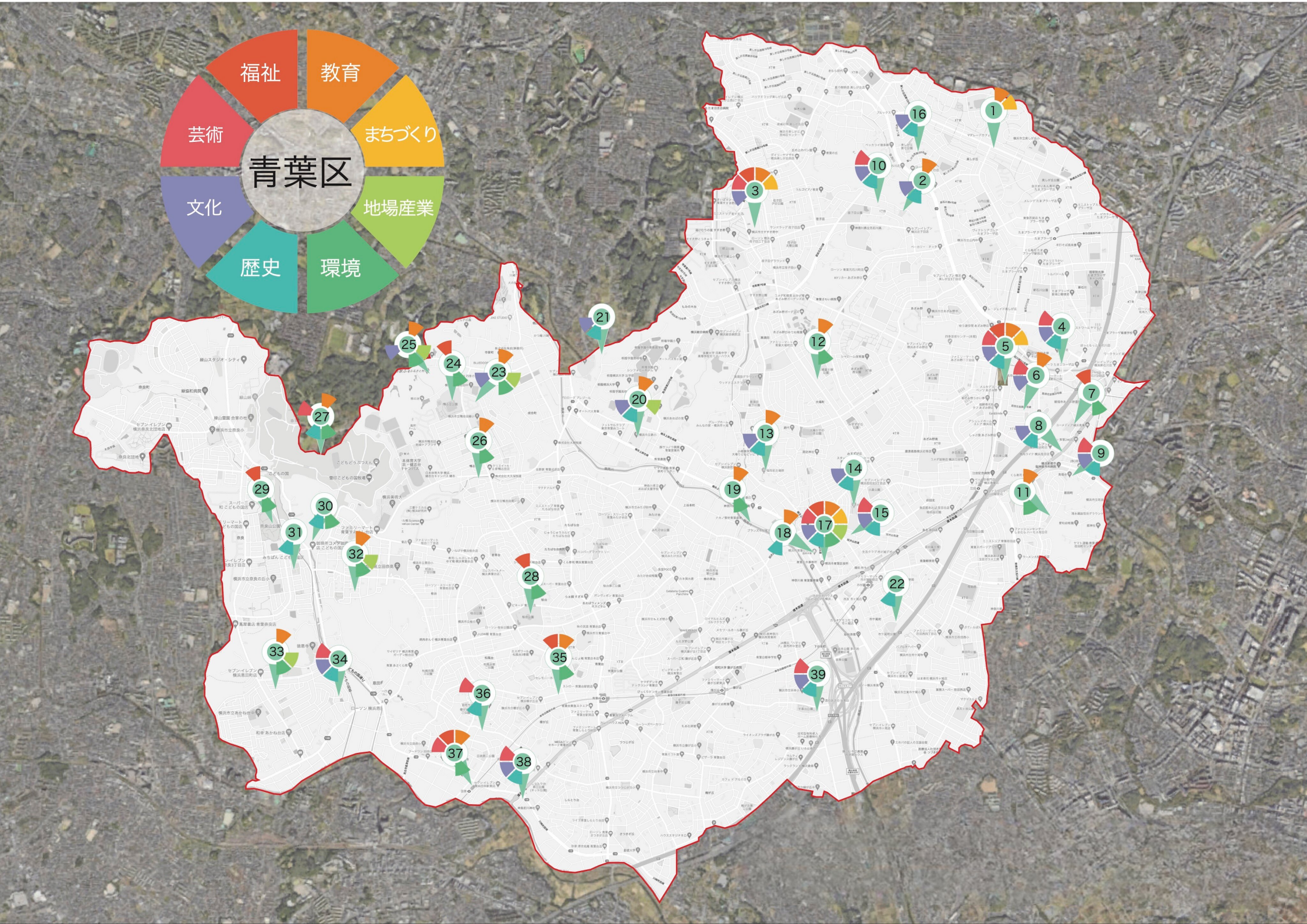

福祉
教育
芸術
まちづくり
青葉区
文化
地場産業
歴史
環境

青葉区の宝

22. 朝光寺原遺跡

14. 市ヶ尾横穴古墳群 .

5. 横浜市民ギャラリーあざみ野

1. 美しが丘中部自治会　100 段階段

13. 稲荷前古墳群

10. 荏子田囃子連

9. 真福寺双盤講

15. 市ケ尾地蔵堂双盤講

19. いかだで遊ぼう谷本川

20. 横浜市立鉄小学校郷土資料館

青葉区は、公・民にかかわらず多様な団体がさまざまな活動を企画し、イベントやお祭りも盛んです。それらは、青葉区が持つ多摩丘陵の緑や鶴見川沿いの水辺を利用した自然との関わりが重要視されるものも多く、また、これらの自然を生かした生業としての都市農業も広く行われています。地域には大きな遺跡や神社、伝統芸能も残り、それらを継承する活動や団体の力で、青葉区が歩んできた文化が、芸術や生業、自然などに見ることができます。市民が大切にしてきてくれたからこそ、街の宝とも言える資源がたくさん残っているのです。

	福祉	教育	まちづくり	地場産業	環境	歴史	文化	芸術
1. 美しが丘中部自治会アセス委員会遊歩道ワーキンググループ		●	●					
2. 荏子田横穴		●				●	●	
3. すすき野コミュニティハウス	●	●	●				●	●
4. 牛込獅子舞 (横浜市指定無形民俗文化財)						●	●	●
5. 横浜市民ギャラリーあざみ野	●	●	●			●	●	●
6. 特定非営利法人ハマの JACK		●					●	●
7. 荏田宿公園	●				●			●
8. 荏田宿保存会						●	●	
9. 真福寺双盤講						●	●	●
10. 荏子田囃子連						●	●	●
11. 特定非営利活動法人 eco 体験工房		●			●			
12. 特定非営利活動法人 インターナショナルグリーンプロジェクト		●			●			
13. 稲荷前古墳群		●				●	●	
14. 市ヶ尾横穴古墳群 .						●	●	
15. 市ケ尾地蔵堂双盤講						●	●	●
16. 平川囃子保存会						●	●	
17. 横浜市青葉区役所 .	●	●	●	●	●	●	●	●
18. 横浜市青葉区郷土史の会 .		●				●		
19. いかだで遊ぼう谷本川実行委員		●			●			
20. 横浜市立鉄小学校郷土資料館 .		●		●		●	●	
21. 鉄囃子保存会						●	●	
22. 朝光寺原遺跡						●		
23. 農に学ぶ環境教育ネットワーク		●		●	●		●	
24. 鴨志田公園					●			●
25. どろん子会		●		●	●		●	
26. 特定非営利活動法人　森ノオト		●			●			
27. こどもの国		●			●	●		●
28. 桜台公園	●				●			
29. 奈良山公園	●				●			
30. 住吉神社					●	●		
31. 旗本石丸家 3 代の墓						●		
32. 特定非営利活動法人青空保育ぺんぺん草		●		●	●			
33. 青葉みらい農くらぶ		●		●	●			
34. 上恩田杉山神社囃子保存会						●	●	●
35. 特定非営利法人 WE21 ジャパン青葉	●	●			●			
36. 五輪塔形式の庚申塔						●		●
37.ＮＰＯ法人あおば学校支援ネットワーク	●	●			●			●
38. 下恩田囃子保存会						●	●	●
39. 下谷本杉山神社囃子保存会						●	●	●

4. 牛込獅子舞

23. 農に学ぶ環境教育ネットワーク

30. 住吉神社

31. 旗本石丸家 3 代の墓

25. どろん子会

32. 特定非営利活動法人青空保育ぺんぺん草

34. 上恩田杉山神社囃子保存会

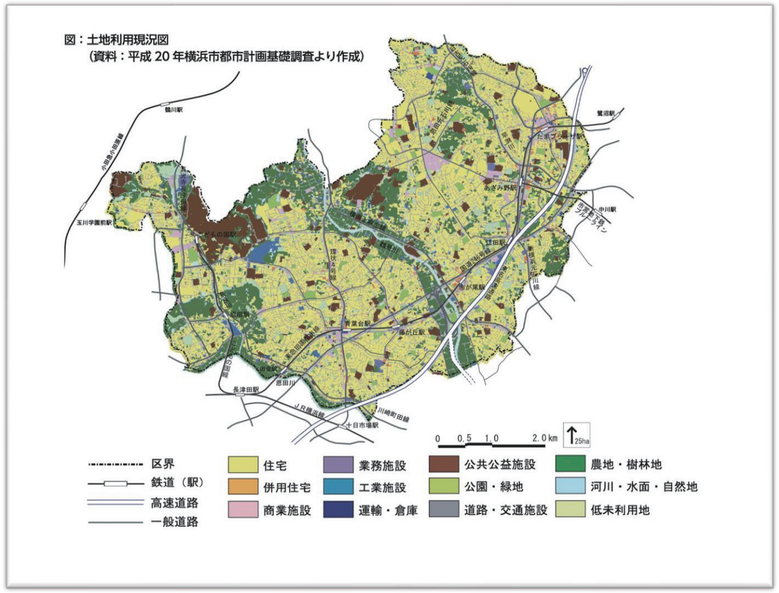
38. 下恩田囃子保存会

33. 青葉みらい農くらぶ

36. 五輪塔形式の庚申塔

青葉区の農業・マルシェ

青葉区の農業の特徴



↑農地の分布

青葉区で生産される農作物

・米
青葉区は横浜一の米どころで、作付面積2,385ha(令和2年）と最も広い。
・日本なし
こちらも栽培面積が大きく、1,036ha(令和2年）で緑区の1,365haと合わせて市内で群を抜いている。浜なしとしてブランド化されている。
・牛乳
雪国こどもの国牧場で製造された牛乳は「サングリーン」という名で販売されている。脂肪分を砕いていない（ノンホモ）ため生乳に近い。ソフトクリームやラーメンにも使われている。

データから見る青葉区の農業

図１　行政区別農家数（総農家）

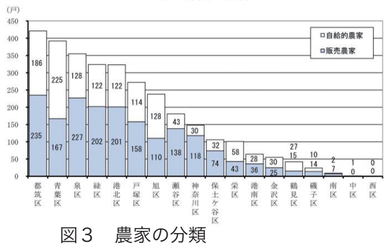


図２　行政区別経営耕地面積（総農家）

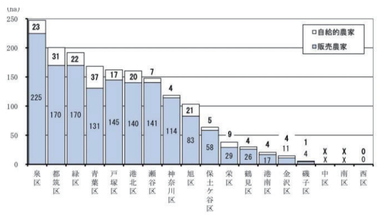
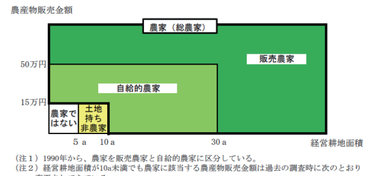


図３　農家の分類

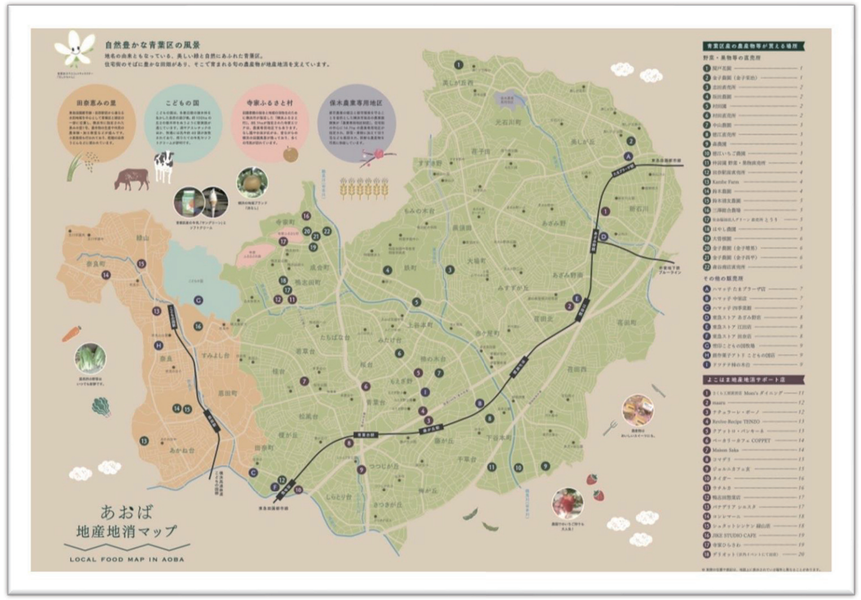


（注１）1990年から、農家を販売農家と自給的農家に区分している。
（注２）経営耕地面積が10a未満でも農家に該当する農産物販売金額は過去の調査時に次のとおり変更されてきている。

図1~3はいずれも「2020年農林業センサス農林業経営体調査結果報告」から

図1のように、青葉区は横浜市内で二番目に農家数が多く、農業が盛んであると言える。特徴として、自給的農家の割合が高く、農家数と比して経営耕地面積が少ない(図2)。
※図３は自給的農家の定義を示す。

青葉区での地産地消の取り組み



↑青葉区で採れる農作物を販売、使用している場をまとめたマップ

これまでの取り組みの例

・はまふうどナビ
市では横浜の農業のブランド化を目指し、「横浜農場」の名のもとにPR活動をしている。左はその一環で発行されている情報誌で、7月号では青葉区の地産地消についても取り上げられていた。

・あおば地産地消レシピBOOK
青葉区で採れた作物を使ったレシピを紹介している。地域の農家の取材記事や旬の野菜の紹介など、その他の情報も掲載されている

・あおばマルシェ
青葉区役所で月一回行われるマルシェ。現在6つの農家が出品している。上はあおばマルシェで使えるポイントカード。

・あおば地産地消の味めぐりスタンプラリー
青葉区で指定された地産地消サポート店を利用してポイントをためるとサービスを受けられる。
（期間終了）

上画像5枚はいずれも横浜市HP<https://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kurashi/machizukuri_kankyo/midori_eco/20161005170427.html>

各地域の特色に基づいたマルシェを開催することで、小さな規模の農家と地元の消費者をつなぎ、様々な分野で青葉区を支えるネットワークの基盤とできるのではないか。